

第2部 サミット会議

司会（総務課企画担当課長）

皆さんおはようございます。

昨日は、雪舟サミット第一日目の各行事にご参加いただきまして、ありがとうございます。お疲れのことと存じますが、引き続き本日もよろしくお願い致します。

申し後れましたが、私、本日の司会を勤めさせていただきます、川崎町総務課企画担当課長の谷でございます。よろしくお願い申し上げます。（拍手）

公式行事に入ります前に、はなはだ勝手ではございますが、少しお時間をいただければ幸いです。と申しますのは、本日の雪舟サミットの会場となっております藤江家は、代々この地にあって雪舟庭魚楽園を守ってこられ、現在で24代目となられるわけですが、当主の藤江敬麿さんは本町の文化の発展にご理解を示し、また文化の町づくりに非常に貢献されたわけでございますけれども、残念ながら平成3年の12月にお亡くなりになりました。その後、奥様がその意志を受け継いでこられたわけですが、本日の雪舟サミットも物心両面から非常にご支援、ご協力をいただいておりますので、町としても感謝の意を表して感謝状を送りたいと思いますので、ご協力をお願い致します。

原口栄弘（川崎町長）

感謝状、藤江敬麿殿。あなたは文化財の重要性を深く認識され、永年にわたり国指定名勝藤江氏魚楽園を維持管理いたし、川崎町の文化の向上に多大な貢献をされました。ここにその尽力に対し、深く感謝の意を表します。平成5年7月6日、川崎町町長 原口栄弘、川崎町教育長 柳武孝之。どうもありがとうございます。（拍手）

司会

それでは、雪舟サミット第2部の開会挨拶を川崎町教育長柳武孝之が行ないます。

柳武孝之（川崎町教育長）

皆様、おはようございます。さぞかしすがすがしい朝をお迎えしたことと推察いたします。友好と親善をキャッチ・フレーズに結ばれました3市3町の雪舟サミットを、ただいまから開催いたします。（拍手）

司会

それでは交流会議にはいります前に、本日の日程についてご紹介させていただきます。

これから交流会議をお願い致しておりますが、交流会議が終わりましたら、この場で記念撮影をお願い致します。記念撮影終了後、本日はあいにくの天気ですので、この場で野点を行ない、その後昼食をしていただき、12時40分よりこの魚楽園の駐車場にバスが待っておりますので、ご乗車をお願い致します。

視察ということで、自慢してご案内できる物はありませんが、当町の以前の炭鉱住居地を改良住宅として町づくりを進めております三井団地をご案内し、続きまして田川市にあります田川石炭記念資料館をご案内させていただきます。そして、15時頃に昨日宿泊し

ていただきましたグランドホテル英彦山湯～遊～共和国へお送りしたいと考えております。JRをご利用の方は、ホテル到着後田川後藤寺駅までお送りさせていただきます。それでは、ご案内いたしております「雪舟ゆかりの地」の自治体のトップによります交流会議を始めさせていただきます。

本日の交流会議の進行役は、開催地の原口町長にお願い致します。それでは原口町長、よろしくお願い致します。

進行役（原口栄弘）

高いところから大変失礼ではございますが、進行司会をさせていただきます。昨日は長い時間ご苦勞様でした。厚くお礼申し上げます。今日は雪舟サミットの2日目でございますが、ただいまから交流会議を始めさせていただきます。時間は10時50分までの約1時間10分でございます。時間的な制約もございますので、実り多き会議とするためにも、ひとつザック・バランスに忌憚のないご意見をお願いできたらと思っておりますので、お願い致します。

今回の交流会議のテーマは「21世紀の町づくり」となっております。それぞれが取り組んでおられます町づくりには雪舟に関するもの、その他のものといったように様々なものがあるかと存じますが、ぜんぶをまとめて総論的なご発表をいただければと、そのように思っております。したがってまず最初に、それぞれの市や町で取り組んでおられます町づくりを、将来の展望も含めまして5分程度で短い時間で失礼ではございますが、ご報告いただければ幸いかと存じます。前回のサミットではあいうえお順でしたので、今回はそれを逆にしまして、まず最初に芳井町さんからお願いしたいと思っております。よろしくお願い致します。

佐藤孝治（芳井町長）

岡山県の芳井町でございます。昨年初めてこの雪舟サミットへ参加させていただきました。各市・各町の取組み方についていろいろと勉強させていただいたところでございます。雪舟さんを先頭へたてての町づくりに、私も感銘を申し上げたところでございます。

さて、昨年も私このサミットの席におりまして申し上げましたが、雪舟さんが亡くなった地、いわゆる終焉の地は、いろいろ文献等拝見いたしますと非常に多い。しかし生まれましたのは岡山県の総社市の赤浜である、これは間違い無いようでございますけれども、私が昨年そういうことを申し上げましたところ、毛利博物館の臼杵館長先生は芳井でしかり、山口でしかり、そして益田でしかりというお話でございましたが、それ以上追求すべきでないという記念講演の締めくくりをいただきまして、実は私もその当時ほっとして参ったわけでございますが、今回も参りまして昨日も申しましたが、山陽新聞という日刊紙が参りまして「雪舟サミットへ行って、何のメリットがあるのか記事にしたい」ということでございましたが、昨年おじゃまいたしまして本年もおじゃまするわけでございますが、取組み方についてもいろいろ勉強したいということでございまして、議長・副議長・そし

で私共の教育長と担当の職員と、大勢参っておるようなところでございます。

さて、雪舟への取組み状況を若干申し上げますと、雪舟さんが亡くなったのが2月の18日ということを知っておりますので、わが町では雪舟を語る会の方々を先頭にいたしまして、近隣のお茶にご趣味のある方たち約100名が、雪舟禅師の前で兼茶の式を行っております。これも本年の2月の18日が初めてでございます。数多くの方々にお集りいただきまして記念講演も行なったというところでございますが、講師の方がおっしゃるには「雪舟雪舟と気軽に呼ぶが、それは間違っている。岡山県で初めての遣唐使としてその使いを果たしました吉備真備公がいらっしゃいます。吉備真備が何町へ行ったなんて言ったらたたかれるぞと。吉備真備がというふうなことを言う人は誰もいません。したがって、雪舟禅師にも雪舟和尚とか雪舟禅師とか敬称をつけて呼んでもらいたいということではございますが、このことにつきましては、はやくからご参加なさっている市長さん・町長さん方のご意見を賜りたいというのが私の気持ちでございます。いかがなものでございましょうか。

それから、雪舟を語る会というのを昨年もお話いたしました。本年もその会の主催によりまして飲茶会をいたしましたが、年に4～5回は雪舟を語る会を行っております。その先頭に立っておりますのが先程市長さん、町長さんにお配りいたしました指標の中に篠原國夫という先生がいらっしゃいます。八十余歳になりますけれども、毎年雪舟に関する文献を、文献と申しますと大袈裟になりますが、先程皆様にお配りいたしました雪舟禅師の生涯というものでございますが、これもひとつ皆様お暇がありましたらお読みいただきまして、いろいろご意見もございましょうから、そのご意見等をお知らせくださればなにかと有り難いと、かように思っております。

それから雪舟の情報誌といたしましては、「雪舟の里」という題目で春夏秋冬の年4回発行いたしております。

それから「雪舟コーナー」というのを芳井町の歴史民族資料館に設けておりまして、訪れていただきました多くの方々に新たに見ていただくということを計画中でございます。

それから昨年も申し上げましたが、まず名刺を作って議会の方、商工会の方、農協の方、町の職員はもちろんでございますが、県知事をはじめといたします県の幹部連中にもこれを配りまして、雪舟をひとつ大きく前に出そうということでがんばっているところでございます。

昨日も申し上げましたが、私共の合併当時の人口が12,356人ではございましたが、現在は7,000人を割っているという状況でございます。ひとつ人口を増やす方向で努力いたしております。まずそれには所得制限のない町営住宅というものを建設いたしております。来たる20日には竣工式を迎えるところでございます。面積にいたしまして約72m³LDKでございます。はや15名の方が申込みをしていただいております。審査委員会も終了いたしました。15名の方には決定通知もさしあげて

いるというのが現状でございます。いずれの過疎の町は高齢化が非常に進んでおります。御多分にもれず我芳井町もはや27%という数字を頂戴いたしまして、若ものをとめるには若もの思考の町民運動場と申しますか、野球場、ソフトボール、そして高齢化が進んでおります今日現在におきましてはゲートボールもできるというものを、去る4月に落成式をいたしたところでございます。何分にも森林が76%を占める我町でございますので、山を切り開きまして約2億1千万を投じまして2ヶ年継続でやったのがこの事業でございます。今日現在におきましてはサッカー熱が非常に高くございまして、サッカーに取り組んでおりますのが小学校、中学校、そして青壮年であると思う次第でございます。他によいスポーツがございましたらご教授願いたいと思う次第でございます。いろいろ過疎の町で苦労しておるとというのが現状でございます。

幸いにいたしまして我町議会の議員さんは16名でございますが、この方々が非常に協力的でございます。出席も大変多いのですが、この協力の度合いが各市・町に比べてよいのではないかと高く評価しておりまして、今後も皆様方のお話を承りながら雪舟サミットへは長くお付合させていただきたい、来年度と申しますと大野町さんの方へ参るようですが、その次あたりはぜひ岡山県の芳井町へお越し願えればありがたいと思うわけでございます。今回のサミットの川崎町さんにおきましては、あたたかいおもてなしと細かい配慮で今日のサミットを開催していただきましたことを厚く御礼申し上げます。私の説を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

進行役

どうもありがとうございました。

続きまして、昨年の開催地でございます山口市さんをお願い致します。

佐内正治(山口市長)

おはようございます。「21世紀の町づくり」ということでございますが、今川崎町の町長さんから総括的な発表を5分程度でどうぞということでしたが、ごくかいつまんでご報告をさせていただきます。

本市は平成3年に平成12年、いわゆる西暦2000年を目標としました第四次山口市総合計画を策定しております。その中にまちづくりの基本理念や望ましい都市像等を掲げておりまして、さらにそれにどのような方法によってアプローチしていくかという方法も掲げております。まずその基本理念といたしまして“自然と文化をはぐくみ躍動する中核都市 やまぐち”を掲げておりまして、その実現にむけたまちづくりを行っております。

昨日も申し上げましたが、山口市は山口県の県庁所在地でございまして、いわゆる県都でございますので、国や県の行政機関、県立美術館等の文化施設、山口大学等の高等教育機関の集積がみられます他に、郵政省のテレトピア構想、ハイビジョン・シティ構想や通商産業省のテクノポリス、頭脳立地法の地域指定をはじめニューメディアコミュニティ構想の指定を受けるなど、県下の政治・行政・教育・文化・情報の中心的な役割をはたして

いるところでございます。しかしながら、ご案内の通り本県には大都市がございまして、中小都市が散在しております。「都市の時代」といわれている今日、住民に多様なサービスを提供するにはどうしても中核都市が必要でございまして、山口市を中心とした県中央部にその期待が高まっているところでございます。したがってまして本市が県都として山口県の真の中核都市となるためには、今年12月に開局いたします都市型ケーブルビジョンをはじめといたしました高次な都市機能を今後より一層整備して参る必要があると考えております。このために魅力ある中核都市づくりの一環といたしまして、ただいま市の中心に中園町というところがございまして、市役所と湯田温泉の間あたりで約29haありますが、この域を情報・業務・文化の機能を持ったゾーンとして再整備いたしまして、高次都市機能の集積を図り、新たな都心地域の整備をしようとしております。事業費約1,500億円で、非常に財政的に大きな負担をいたしますが、これに取りかかろうとしております。

また本市は、地方拠点都市法によります地域指定を周辺の1市2町と今年2月に受けまして、このゾーンを拠点として位置付けておりますことから一層の整備促進を図られるものと期待をしているところでございます。また、すでにこのゾーンは、建設省の都市拠点総合整備事業の調査地区の採択を受けていまして、調査費はすでについておりますが、今後これらの事業を活用しながら、今申し上げました1500億の事業費で平成20年を目標に整備を進めていきたいと考えております。

活力ある産業づくりといたしましては、本市南部地区にテクノポリス計画の中核工業団地でございます山口テクノパーク、約207haを整備いたしまして、現在3期の分譲を行なっていますが、すでに15社の立地が決定しております。この内の1社が今月末に竣工式を行なう予定でございまして。また同じ南部地域でございまして、山陽自動車道の山口南インターチェンジに隣接した地域に、その立地条件を活かした流通型及び加工組立て型の業種を中心といたしました鑄銭司団地、約30haを整備中ございまして、平成6年度に一部分譲開始を目指しております。先程申し上げました情報業務文化ゾーン整備と合わせまして、若者にとって魅力ある就業の場を創出し、人口定住を促進して参りたいと考えております。

また観光及び文化面についてでございますが、県下の観光宿泊の拠点であります湯田温泉地区に、本市が生み出した近代詩人の中原中也の作品や遺品等を展示する中原中也記念館、仮称でございまして、現在建設中でございます。この記念館の建設にあたりましては、建物の設計を全国から公募いたしまして、この中から最も優れたものを選び、それをもとに現在建設中でございます。お手元の資料の23ページに完成予想図を載せておりますが、その写真をご覧いただければと思います。なお、全国から460件程の応募がありましたが、寄せられました応募作品につきましては、8月6日から9月5日にかけて「詩人のための建築展」と題しまして、県立美術館で展示することになっております。この記念館の完成は来年の2月の予定になっておりますので、完成いたしましたらご来館いただきまし

て、中原中也に接していただきたいと思っております。また、開館を記念いたしまして全国から詩などを募集いたしまして、中原中也文学賞というようなものがないか検討中でございます。また本市は、ご案内のように平安時代の造幣局でございます周防鑄銭司跡や、室町時代に西の京として花開きました大内文化関連の施設が多く残っております。また、幕末期には毛利藩の藩庁が山口に移りまして明治維新の策源地になりましたことなど、歴史と文化に恵まれた町でございます。今後はこのような恵まれた文化資源、例えば雪舟を含めた大内文化を活用しながら全国に誇れるまちづくりを展開して参りたいと考えております。当市におきましては雪舟を雪舟とだけとらえるのではなく、大内文化の中の雪舟、あるいは大内文化の中のフランシスコ・サビエルというふうに、すべて大内文化の中に位置付けております。

それから市民のスポーツ・レクリエーションの振興についてでございますが、約15,000人、両翼100m、センターまで122m規模の公認野球場を中心といたしました市民スポーツの森の整備を練っております。これは市の北部、先般お話いたしました雪舟庭の常栄寺よりすこし益田市寄りですが、硬式野球場と軟式野球場の2を平成6年度を目標に現在整備をしております。またレクリエーション関係といたしましては、南部地区の瀬戸内海に面したところに、海水浴場やキャンプ場などの海洋型レクリエーションゾーンとして整備する計画でございます。

以上、現在山口市が取り組んでおりますハード面の主なものについて述べさせていただきましたが、ご案内の通り先般P. H. P研究所の出しております「THE 21」という月刊誌の6月号の特集に“環境にやさしい都市ランキング”というのがございまして、その総合ランキング国内100都市中1位にランクされました。誠に光栄に思っておりますか、これにも裏付けられましたように美しい自然環境にも恵まれております。今後とも恵まれた自然・文化・伝統を継承・保存するとともに情報化・国際化・高齢化の状況に対応いたしましたにぎわいにあふれ輝きときめくふるさとづくりを進めていきたいと思っております。

以上で山口市のご報告を終わらせていただきます。(拍手)

進行役

ありがとうございました。それでは第1回サミットが行なわれました総社市さんをお願いいたします。

本行節夫(総社市長)

総社市でございます。焦点を雪舟さんとの関わりで申し上げてみたいと思います。もうすでにこの資料にでておるところでございますが、雪舟さんを通じての町づくりでございますが、まず生まれたところございまして、山の宝福寺で修行を怠って涙でねずみの絵を書いたというのがあまりにも有名でございます。それから先の雪舟さんのご活躍というのは絵でしか知らない、というのが私共のトータル的な見解でございます。そこでやはり子供達にこんな立派な人がいたんだということをみんなに体験してもらって、そして自らを

奮い立たせてもらおうというふうな意味を含めまして、第1回のサミットを始めました。また、雪舟足跡めぐりツアーを3回実施しました。益田、山口方面2回、九州方面に1回でございます。ほかには子供会連合会がミステリー列車と銘打ちまして、200名程度の子供達が1回目は益田市さん、2回目が川崎町さん、3回目が山口市さんと益田市さんにかがわせていただきました。また益田市からは3年に、大野町からは4年においでいただいております。同時に市民にもっと雪舟さんを知ってもらおう、交流してもらおうということで、雪舟縁の地交流促進事業という補助金の制度を設けまして、本日おみえのみなさんの地へ行って宿泊をともなって交流したのものには、限定50人でございますが若干の助成をしようということでございます。

それから、売り出すためには雪舟さんの名刺をとということで、これは皆さんご承知でございますが、雪舟さんは1956年に世界の10大文化人としてソビエトとルーマニアで切手となりました。これを郵政省にお願いをして使わせていただきました。世界の10大文化人の中で東洋人一人、しかもそれが日本人でわが市、また本日ご出席の皆様在市町に関わりがある雪舟さんでございまして、これをもって行きますとよくやったなど大変イメージがよいわけでございます。またテレホンカード作成、これもすぐに売り切れました。こういうふうの一つ一つでございますが手を打っております、市内で2つ目のライオンズクラブができましたけれども、雪舟ライオンズクラブという名前を付けていただきました。また、市民まつりには毎年雪舟フェスタと銘打ってやっております。郵便局でも雪舟さんの葉書セットを発売していただいております。先程の雪舟足跡めぐりツアーも申込みと同時にいっぱいになってしまうほどの人気でございました。今年は8月と9月に京都市と天の橋立を予定しております、雪舟さんがふる里を後にして初めて旅されたのが京都、まただいぶお年を召されてでございますが天の橋立の絵を書いております。550年前に思いを馳せてみたいと思っております。また来年あたりには中国大陸にも行ってみたいなど思っております。ちょうど来年は私ども市制施行40周年ということで、記念行事の中にいれたいかと検討しております。そうなりますと、構成しております皆様と共同でということにならないかと思っておりますので、ひとつ今後の交流課題としていただきたいと思います。それから雪舟さんの銅像でございますが、益田市さん、山口市さんにはございます。私どものところには幼少の頃のものではございますが、肖像もあるわけですが、それらを立像にあるいは胸像に共同で製作し共同で持つことはいかがかなと、こんなことを思っております。一流の作家の先生で複数を作る、同じものをそれぞれに持つということも意義があるのではないだろうか。これもひとつ検討課題にしていきたいと思います。それから生誕の地に若干の記念碑等ございますけれど、ほ場整備の予定でもございますので、これに合わせて少し広げたい。これは40周年記念事業として手始めができないだろうかと思っております。

これらに関連いたしまして、子供達の将来にとって偉大な人がおられた、子供達の将来が大きく育って欲しいということで、教育設備に力を入れていることは申し上げるまでも

ございません。また今年岡山県立大学が保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部、それに岡山県立大学短期大学部これは保健健康福祉学科ですが、これが開学いたしましたので、開かれた大学としてこれらとの交流を取り入れた町づくりをしていきたいと思っております。

もう一つは備中国分寺の五重塔でございますが、改修中ございましたところ、おととしの19号台風で壊れまして、一からやり直しました。この秋には完成いたします。来年の春までには落成ができるだろうということでございまして、吉備路の観光も目玉がよみがえるわけでございます。ぜひ観光の方にも力を入れていきたい、皆様もおいでいただけたらと思います。

これに関連いたしまして、観光センターの建設の予定がございまして、岡山県にも参画していただくということで進めておりますけれども、その中に日本庭園をという構想がございまして。そうすると共通する雪舟庭園、そのような雰囲気をも部分的にも取り入れることはいかがかなと考えております。そのほかにも、企業誘致のこと等ありますけれども、それはさておきまして、雪舟に関わります町づくりの一端を申し上げさせていただきます、私の話をおわらせていただきます。

ありがとうございました。(拍手)

進行役

ありがとうございました。ちょっと順番を間違えまして、お詫び申し上げます。前回のサミットではあいうえお順でいきましたので今回は逆でということで、今回は芳井町さんからございましたけれど、2番目に順番からいきますと第2回雪舟サミットが行なわれました益田市さんでございましたが、順番を間違えました。お詫びして訂正いたします。

それでは益田市さん、よろしく願いいたします。

渋谷義人(益田市長)

私が最初に皆様方にお礼を申し上げておきたいと思っておりますことは、昨年11月に市政40周年式典を挙行いたしました。その時に雪舟サミットの皆様方にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

さて、実は私、昨年8月に前市長の勇退に伴いまして市長になりました。しかし昭和36年から6期ほど議員をやったり議長をやったりしておりましたので、大体の事は頭の中にありますので、今は昔の議員時代の経験を活かしながら取り組んでいるところでございます。皆さんとこうして雪舟に関わります市・町にお仲間入りことができましたことを、またこうして一緒にお話ができますことを極めて光栄に思っている次第でございます。

さて本論に入りますが、昨日も申しましたとおり、私のところに石見空港という飛行場が完成いたしました。7月2日つい先日でございますが、エアーニッポンが就航しております。やはり私の頭の中では基本的に石見空港を頭の軸におかない限り、益田市の飛躍と前進は考えられない。ズバリ申しまして、石見空港の盛衰はひとえに益田市の盛衰であろうと政策的な位置付けをしている次第でございます。

実は関西圏あるいは関東圏から私共のところに来られる方々は、概ね萩、津和野といった観光ツアーの方々のほうが、ビジネスでの利用客よりも多いのではないかと私は想像しております。そうすると、やはり隠された益田市のよさを見直していく必要があるということを考えておりました、そういう意味からも雪舟さんとは深い関わりがでてまいります。と申しますのは、実は大正15年に益田市に“雪舟顕彰会”というのが設立されました。その当時、賀団で非常に名のある方々が顕彰会、つまり終焉地保存会の主旨に賛同されて、67名会員になられ名前を残しておられます。その方々はすでに亡くなっておりますので、お弟子さんにあたる方々のルーツを探していくうちに、23名の方達にお会いすることができました。そのうち13名の方が名簿に残された懐かしい師匠さんの字に感動されまして、現代日本画を寄贈してくださるなど、大変美しいお心を頂戴いたしました。その方々を益田市にお招きをいたしまして、一夜を共にしました時の会話の中で、「市長さん、柿本人麿の終焉の地だとか、あるいは雪舟の終焉の地だとかそういうことは言うな」と。「万葉の歌人柿本人麿や画聖雪舟がこよなく愛して住んだということは偉大であります。素晴らしいまちだから住んだはずです。だから終焉とか何とか言わない方がいいでしょう。全国のいろんなところにもそれぞれ終焉と名指しておられるところのお師匠さんをご存じだと思いますが、雪舟サミットの市町はそれぞれ歴史のあるところばかりでございます。ですからこよなく愛して住んだということは素晴らしいまちであった。その素晴らしいまちとはどんなまちなのかということを考えることが、歴史のルーツを探った一つの価値ではないか。」ということを言われました。このことに私はヒントを得まして、“歴史を活かしたまちづくり検討委員会”の設置を計画いたしているところでございます。益田氏が権勢を誇りました益田文化の発祥の地であってみれば、中世の遺跡群が益田市には多く存在しておりますので、日本的な考古学の権威者あるいは土木工学の権威者等の方々に英知を求めながら、どんなまちにしていくかを検討するため、着々と準備をして大方のメンバー・構想等出来上がったところでございます。こうした意味から津和野だとか萩だとか秋芳洞などの広域観光の一角に益田市を位置付けるには、萩にも津和野にもない益田市のよさを引き出すべきであろうというのが私の考えであります。そういう意味から一生懸命取り組んでおります。

それから総社の市長さんがおっしゃってましたが、私4月に中国に行って参りました。中国の寧波の天童寺というところで雪舟禅師は修業されたようです。そういう雪舟にちなみまして寧波と親善の議定書を交わしたわけですが、本年度は寧波から中学生を呼びましてサッカー大会をやるとういうふうに考えております。やはり石見空港という位置付けの中で、日本の大都市圏と距離的に近くなったという満足感だけでなく、世界と益田が非常に近くなったということ踏まえまして、国際色漂うまちづくりということも考えていきながら雪舟さんを偲ぶまちにしていくべきであろうと思っておりますのと、最後になりましたが、梅原猛先生が柿本人麿の研究をされておられまして、今「鴨山の岩根し枕けるわれをかも知らにと妹が待ちつつあらむ」という人麿の句を非常に一生懸命勉強されまして、万

寿3年の津波の時に人麿の住んでいた鴨島という島が陥没したんだということを物理学的、地質学的に立証するために、益田の海岸の学術調査がなされておりまして、そこらあたりにも海の底からいろいろなものが出ていますので、できることなら万葉の博物館というようなものを作り上げて、石見空港に来ていただく都会のお客様の目を楽しませてあげられたらなと思っております。

まとまりのない事柄に終始いたしました、やはり最初に申しましたように、石見空港を度外視したまちづくりはないと心がけておりますので協調したわけでございますが、近代の意味と歴史的な重みをどういう具合に融合していくかということが、当面の私の使命のように受け止めている次第でございます。

大変まずい説明に終始いたしました、この辺で私の責めを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございます。(拍手)

進行役

どうもありがとうございました。それでは次回の開催地であります大野町さんをお願いいたします。

三浦寛喜(大野町長)

資料の14ページと16ページにそってご説明いたしたいと思っております。

私共は“農道空港とぼたん桜の町づくり”をキャッチ・フレーズに町づくりに取り組んでいまして、雪舟さんの縁の地ということをお共は非常に誇りに思っております、その関わりはどのようなものであるかということをお最初に申し上げたいと思っております。

私共の町の一辺を流れている大野川に沈墮の滝があるわけでありまして、その雄滝の高さは17mと幅は9.3m、一方の高さは18mと幅4mの雌滝の2つの滝からなっております。この雄大な滝は昔から豊後のナイアガラと呼ばれて、景勝地として多くの方々が現在訪れていただいているわけでありまして、今から517年前になるかと思っております、雪舟さんが中国で山水画を学ばれました。おかえりになりまして大分市に天開図画楼を開いておられました頃、初めて山水画として真実といえましょうか、自然のままの滝をお描きになった。これが沈墮瀑図として我国美術史上有名な作品となったと記録されているわけでありまして、現在この瀧は九州電力株式会社のダムとして利用されていまして、以前は滝のすぐ下にレンガ作りの発電所がありましたが、その面影が周辺の景色と共に人々の心を引き付けてはなさない趣を呈しているわけでありまして、又、現在この滝のある地域の皆さんが中心となり、なんとかしてこの景観をもっと立派にしたいということで滝ん子会という組織を作りまして、環境の整備に取り組んでおられるわけでありまして、町としてもこの素晴らしい景観と地域の皆さんの熱意に加え、滝にまつわる伝説や盆踊りの口説きにも語り継がれていますこの沈墮の滝を、みんなの心のふれあいの場として年次計画を立てながら整備するため、現在九州電力株式会社と建設省と県と協議をしながら開発構想に取り組んでいるところでございます。

一方、歴史的な文化財としましては、豊後の大友氏の発祥の地であることから、本町は

大友一族にまつわれます数多くの物語や遺跡がございまして、その代表的なものに常忠や勝光寺があるわけで、これらの伝説や文化財を地域活性化にむけて整備をいたしているところでございます。

さて現在村おこし事業の主なものとしましては、昨日も申し上げましたが町花はぼたん桜でございますので、町中が町花で咲き誇るようなふる里を目指しまして、平成2年に全町民によりまして2,250本の植栽をして参りました。現在公園とか由緒あるところに植えまして、総本数8,000本は軽く超すくらいのぼたん桜が町中に植っているわけでございます。また本町は、昨日も申し上げましたが、農業の振興なくして本町の発展はないという農業立町でございますので、現在耕地の1,160haを潤す350万tの師田原ダムがございます。このダム湖畔を活かしましてふれあい憩いの場、生活体験学習の場といたしまして、春の花が咲く頃にはダム一周桜マラソン大会、あるいはフィッシング大会、あるいは湖面火祭等に加えまして、現在ダムの湖面に螢が乱舞するようなダム周辺の活性化を図ろうということで、螢の養殖等にも取り組んでいこうとしているところでございます。

次に商店街の活性化でございますが、その町に活力があるかないかということは商店街を見ればわかるといたしますが、商店街の活性化を図ることが私共の町の衣食住を満たすことであると考えまして、町ぐるみで商店街の産品・商品を愛用しましょうという町内産品・町内商品愛用運動を起こしているわけでございます。商店街の皆さんもこれに呼応するように、3年前から中小企業活性化構想事業に取り組んでおりまして、最近共同店舗なるものを建築しようという構想がありまして、私達もこれに期待を持ち、条件整備に協力していこうと考えているところでございます。

次に若者の定住と過疎からの脱却でございますが、昨日も申し上げましたように過疎・高齢化が進んでおります。若い人達の心理、あるいはニーズに答えるような、先程芳井町さんのお話にもありましたが、公営住宅等の建築、古いものが14戸位余っているわけでございますけれども、そういった旧態依然とした住宅は若い人にはむかないということがありますので、住宅の立替えというものの十年計画を立てているところでございます。それから生活環境の整備でございますが、下排水の整備、あるいは交通体系の整備、中でも県都大分市と結ぶ県道大分 - 大野線、41号線というのがありますが、これを改良整備いたしますと25分で通える、最短距離になります。このことが過疎活性化の特効薬的な機能を果たすということで、重用路線ということで県ならびに建設省、国にお願いをして整備に取りかかっているところでございます。一方、高齢化が27.8%という率になりましたので、お年寄りの方々もふる里を支えてこられた方々ですから、そういった方々が長生きして良かったというような福祉設備も考えていかなければなりません。在宅福祉の三本柱と言われております、デイ・サービスとショート・ステイやホームヘルプ事業の充実した運営につとめて参り、高齢者保健福祉戦略としてゴールド・プランも立てつつあるわけでございます。

次にニューフライト農業の推進でございますが、農道空港を最大限に活かすことが最も大事なことであるということでもありますから、これを各種イベントに利用することはもちろんでございますが、やはり目的でありますところの農道空港として軽くて小さくて付加価値の高い、そうした野菜とか山菜とか花であるとか、そういったものを栽培面積を拡充いたしまして、施設栽培や水耕栽培の産地銘柄化を図ろうとがんばっているところでございます。今のところ、東京太田市場に出しているわけでございますが、トラック直送便とフライト産品と同じ産品のkgあたりの単価が13%、金額にして2,000円程度高く浮いているということは、新鮮なものを1時間でも早く食卓へというものと、品質で勝負しなければならぬということが成果をおさめたのではないかと、このように思っております。

さて、私共は常々思っているところでございますが、優れた町づくりは優れた人づくりではないかとこのように考えております。人材育成ということには特に力を入れておりまして、青壮年の皆様に集まっておきまして、ぼたん桜2000年会という組織を作っておきまして、県内はもちろんでございますが日本全国にそういった故郷活性化づくり、あるいは地域産業おこし、青年団活動、その他様々な村おこしの素晴らしいところに研修をしていただいているところでございます。また、町の職員に国外にも行っていただこうと、こういう制度も取り入れているところでございます。同時に町に自治会、協議会が75あります。それぞれ集会所、公民館等あるわけでございますが、そういった公民館等がただ単に税金の徴収所とか物事の伝達所に終わるのではなくに、皆さんの親睦とかふれあい、連帯感を持てる地域づくりの拠点にしなければならないということで、2~3年前からモデル公民館指定を行い生涯教育を行なっており、地域活動を活発にするため、年次計画で施設の充実整備等をいたしているところでございます。特に雪舟さんの里づくり事業と組合せながら、その心なり考え方を意図的・計画的に組み合わせながら、地域文化の創造と真に芸術文化が実感できるような芸術文化の花咲く町づくりにつとめているところでございます。そして21世紀にむけて、故郷大野町の大自然に恵まれた良さを活かし、多くの方々にその素晴らしさや、新鮮でおいしい農産品や名所・旧所を見ていただき、食べて買って楽しんでいただくような町づくりに取り組んでいるところでございます。

以上おうざっぱに申し上げましたけれども、来年は私どものところでお受けすることになりましたので、先程来市長さんや町長さんのお話をお聞きしておきまして本当に勉強させていただきましたが、今後私共もそういった開催のノウハウについても研究取り組ませていただきまして、万全を期したいと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。

どうもありがとうございました。(拍手)

進行役

ありがとうございました。

それでは最後に川崎町について触れさせていただきますが、私は進行をさせていただいておりますので、私共の助役に説明させたいと思いますのでご了承願います。

福永一雄(川崎町助役)

それでは町長に代わりまして概要のご説明を申し上げます。

昨日、町の概要につきましては町長から説明がございましたので省略させていただきまして、原口町長が町長に就任いたしましたしてちょうど7年目をむかえるわけでございますが、就任以来住民と共に早くから炭鉱閉山の後遺症から脱却するために故郷を愛し、ふれあいのある町づくりを目指して今まで参ってきたわけでございます。昭和63年が町政50周年でございましたので、その記念行事といたしまして町民憲章を制定し、町の花としてひまわり、町木としていちょうを選定いたしました。そして現在共通のシンボルとして今までやって参っております。一方、すべての住民の協力をいただくために人づくり町づくり推進委員会を発足させまして、挨拶運動、体力づくり活動、美化活動を推進して参りました。おかげでこの運動も徐々に町内に浸透いたしまして、住民の間に心のつながりが広がり、スポーツの振興による体力づくりの推進と共に町花を町内で埋めようということで、住民のボランティア活動も根付いて参りました。しかし基幹産業でありました炭鉱閉山の後遺症は予想以上に大きくございまして、町の発展のためには炭鉱にかわる産業き振興を図らなければなりません。今日まで約20社を超える企業を誘致して参りましたが、その大半は縫製工場など女子雇用型の企業でございました。私達は現在町内にあります岩鼻工業団地を中心にいたしまして、男性雇用型企業の誘致に努力をいたしております。すでに町内には農業基盤整備を推進するために、田川農協のカントリーエレベーター、育苗センター等も岩鼻団地に誘致いたしまして稼働いたしております。また同じ筑豊地区にございます宮田町にトヨタ自動車が進出し又、日産自動車九州工場の増設もございまして、それに関連する男性雇用型企業の進出も数社内定しております。今後は国道のご協力もいただき工業団地の造成にとりかかりまして、産業の産業の振興を図っていきたいと思っております。

さらに炭鉱の閉山は町民の生活に大きな影響を及ぼしておりますが、とりわけ住環境の整備が緊急の課題でございます。と申しますのは、炭鉱時代の炭鉱住宅が町内に約2,000戸程ありまして、これらがいずれも老朽化が激しく、狭くて不衛生でございます。したがって本町では昭和45年以来炭鉱住宅の改良事業を続け、今日までに約1,300戸の改良を実施いたしました。現在は最大大手の炭鉱でございまして三井炭鉱の改良をいたしておりますが、これは600戸、約100億円をかけまして10ヶ年計画で現在実施中でございます。今後の高齢化の社会を考えまして、平屋建てを取り入れましたモダンな改良住宅を作っております。ご視察いただきます一つの場所ですので、後ほどお願い致します。

本町は120床の病院を作っております、これも昭和28年に立てられました木造の建物でありまして、老朽化が激しいために地域医療の観点からはやく改築して欲しいという町民からの要望を受けておりました。財政難のためなかなか実現しませんでした。おおよそ20億かけまして今年5月に開設いたしました。これにより地域住民の中核的医療機関として貢献できるものと考えております。

また本町は36kmという地形でございまして、大きな町ではございせんが細長いため、

小学校が6校、中学校が3校ございまして、中学校の改築はすでに終わっておりますが、小学校につきましては6校のうち5校までの改築が終わりました。残り1校も来年度改築したいと考えております。

またその他にも水資源の確保、下水道事業、町立図書館の建設、本町商店街の振興計画、役場の庁舎が非常に古いわけですがその改築等大きな問題を抱えておりますが、いずれも町長の任期中に成し遂げたいと考えております。

最後に川崎町内の、この地区を旧安真木村と言うわけでございますが、今日でも豊かな自然に恵まれた風光明媚なところでございまして、中でもこの雪舟庭魚楽園は春の新緑、夏の青葉、秋の紅葉、冬の雪景色と、四季いずれの時期にも素晴らしい庭園として人々に親しまれております。昨年のサミットのおかげで岡山県総社市や山口市からたくさんの方に訪れていただきまして、今日ではお陰様で年間7～8万人の方にこの庭に訪れていただいております。なお現在この魚楽園を中心にいたしまして、平成2年度より安真木地区観光開発事業を進めております。本町の南東部に位置します戸谷ヶ岳山麓に自然観察の森、創造の森、溪流散策道、キャンプ場など平成6年度には完成させたいと、現在実施をしております。

まだたくさんの課題を抱えておりますが、町民と共に愛ふれあいの町づくりを目指してがんばっていきたくと思います。

以上でございます。よろしくお願い致します。(拍手)

進行役

ありがとうございました。各市・町から貴重なご報告をいただいたわけですが、なにか補足されるようなことやご質問がありましたらお願い致します。

別にないようでございますので、今後の交流のあり方、共通事業についてのあり方ですが、前回山口さんで開催されました時に、第1回雪舟サミットでは小中学校の視聴覚教育に雪舟さんを加えてはどうか、修学旅行の工程に雪舟縁の地を加え、あるいは雪舟の史跡ツアーの実施、郷土物産・郷土芸能等の交流ができないかというような提案。第2回サミットでは広報誌や観光文化財等の資料交換、雪舟の縁の地と中国の都市との姉妹提携の提案がなされており、第3回サミットでは協議時間がなかったため、事務局の連絡会議で今後詰めさせていただくということになっております。先程の事業についてお手元の別紙の資料に今までの実績を掲載いたしております。これを見ますと、いくつかの事業を除いてある程度の交流がなされているようでございます。しかし、提案されているすべての事業がスムーズに行われているわけではありませんので、今後事務局レベルで検討していただきたいと思うのですが、この件につきましてご意見がありましたらお願いしたいと思います。

ないようでございますので、事務局レベルでご検討していただきたいと思います。

それでは次に本町からのお願いでございますが、サミットも第4回を迎えたわけですが、第5回を大野町さん、第6回を芳井町さんとなって一回りするわけござい

すが、その後どうあるべきかということを検討しておく必要があるのではないかと思います。この件につきましても事務局レベルで検討していただきまして、次回サミット会議にて検討していただきたいと存じます。事務局の連絡会議を本年度中に川崎町にて行い、次回開催地へお渡ししたいと存じますがいかがでしょうか。(拍手)

ご意義ないようでございますので、本年度中に川崎町におきまして事務局レベルで検討していただきたいと、かように存じます。

次に雪舟サミット旗についてご報告させていただきます。前回山口市さんでは、シンボル・マークについてご了解を得ました。すでに文章にてご了解いただきましたこのサミット旗は、シンボル・マークを基にご覧のような旗を作成いたしましたので、今後活用していただければ幸いです。

それではサミットに参加されています自治体が、雪舟文化を中心に今後ますますの交流と友好が深まり、21世紀へ向けて素晴らしい町づくりができますように、サミット宣言の採択にうつりたいと存じます。お手元の額に宣言文を入れております。一応読んでみたいと思いますので、よろしくお願い致します。

「雪舟サミット宣言。雪舟ゆかりの自治体が、それぞれの特徴を持ち寄って相集い、過去への郷愁を土台に、新しい21世紀に向かっての飛躍を談じ合い、協力を誓いあう。この索漠とした時代において、なんと有意義で、喜ばしいことではないか。まさに「温故知新」である。

個々の町づくりのあり方は、それぞれの関係地域の個性に委ねなければならないのは勿論だが、その町づくりの根底に、“雪舟サミットによる豊かさ、暖かさを縦横に張りめぐらし、お互いに切磋琢磨することの素晴らしさを今改めて確信するものである。

また、それによって、更に日本各地に第二第三の雪舟文化が出現することを心から念願しつつ、今後末長く“雪舟サミット”を推し進めていくことを宣言する。平成5年7月6日、第4回雪舟サミット参加自治体交流会。」(拍手)

それではここで、次回開催地でございます大野町さんへ川崎町よりサミット旗をお渡しいたします。

司会

それでは次回開催地でございます大野町さんへ川崎町よりサミット旗をお渡しいたしますので、町長さん、どうぞこちらへおいでください。

大野町さんと川崎町さん、どうぞこちらへお願い致します。

川崎町長

それではどうぞ、よろしくお願い致します。

大野町長

確かにお受取いたしました。(拍手)

司会

大野町長さん少々お待ち願います。

それではここで大野町長さんより次回開催地ということでご挨拶をお願い致します。

大野町長

先程川崎町の町長さんより、どっしりと手ごたえのあるサミット旗をお受け致しました。いよいよ来年は大野町の当番になったわけですが、さて、お引受け致しまして一抹の不安がありますけれども、皆様のご指導・ご鞭撻あるいはご協力をいただきまして、来年の第5回の雪舟サミットにつきましては、大野町を挙げて皆様方のご訪問を心よりお待ち申し上げております。つきましては、来年のサミットの開催日はまだ決まっておりませんが、これは先程お話にありました幹事会の方で検討いたしましてご連絡いたしたいと思っております。その節はよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。(拍手)

司会

どうもありがとうございました。どうぞ、お席の方へお戻りください。

昨日に引き続きましてご熱心にご報告ならびにご協議をいただきまして、誠にありがとうございました。

それでは閉会の挨拶を川崎町収入役手島恵二よりお願い致します。

手島恵二(川崎町収入役)

第4回雪舟サミット。大変貴重な情報の発信と友好が深められ、雪舟サミット宣言が採択をされました。この宣言に21世紀の町づくりに価値を付けるご活躍をいただきまして、来年再会いたしたいと存じます。

終わりに、三市三町が共にご発展いたしますように、合わせてご参加の皆様のご活躍、ご健勝を心から祈念いたしまして、閉会の言葉といたします。皆さんお帰りは大変遠い道程になりますが、情報と交流のお土産を無事お持ち帰りいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。ご苦勞様でした。(拍手)